

## 水田農業をめぐる情勢

### 1. 令和4年産米価格動向（令和4年12月末）

- 令和4年産の出回りから12月末の相対取引価格は、全銘柄平均で13,880円/60kgとなり、3年産の3年12月末比+847円/60kg（106%）となっているが、2年産との対比では▲1,121円（93%）。
- 福島県産では、中通りコシヒカリが12,563円/60kg（前年産比+1,527円、114%）、会津コシヒカリが14,174円/60kg（同+1,474円、112%）となっているほか主要銘柄において900円～1,150円、10%程度上昇して推移しているが、2年産との比較では、中通りコシヒカリが92%、ひとめぼれが90%と全銘柄平均の93%を下回る水準。
- 取引数量については、全国的に前年産を上回って推移している。本県産も会津コシヒカリを除き前年産を上回って推移している。

<相対取引価格の状況(12月末)>

(単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	令和4年12月末		令和3年12月末		令和2年12月末		価格推移の状況			
		価格	数量	価格	数量	価格	数量	4年産 -3年産	4年産 -2年産	4年産 /3年産	4年産 /2年産
北海道	ななつぼし	13,697	53,525	12,720	52,302	15,174	42,029	977	▲1,477	108%	90%
青森	まっしぐら	12,755	10,790	11,028	30,528	13,419	14,094	1,727	▲664	116%	95%
岩手	ひとめぼれ	13,663	18,884	12,499	22,822	14,820	19,537	1,164	▲1,157	109%	92%
宮城	ひとめぼれ	13,547	32,619	12,488	25,693	14,859	21,693	1,059	▲1,312	108%	91%
秋田	あきたこまち	13,896	69,353	13,105	59,429	15,006	51,448	791	▲1,110	106%	93%
山形	はえぬき	13,219	18,990	12,294	15,787	14,248	18,902	925	▲1,029	108%	93%
福島	コシヒカリ(中通り)	12,563	22,656	11,036	12,948	13,677	7,312	1,527	▲1,114	114%	92%
福島	コシヒカリ(会津)	14,174	6,540	12,700	7,420	15,025	3,441	1,474	▲851	112%	94%
福島	コシヒカリ(浜通り)	13,297	1,687	12,143	1,177	13,995	1,258	1,154	▲698	110%	95%
福島	ひとめぼれ	12,425	8,267	11,280	6,762	13,821	4,251	1,145	▲1,396	110%	90%
福島	天のつぶ	12,438	8,041	11,532	5,097	13,116	4,346	906	▲678	108%	95%
茨城	コシヒカリ	13,118	20,705	11,785	14,166	14,114	12,991	1,333	▲996	111%	93%
栃木	コシヒカリ	13,421	10,501	12,392	9,760	14,639	10,070	1,029	▲1,218	108%	92%
千葉	コシヒカリ	12,615	17,215	11,453	13,223	14,379	9,130	1,162	▲1,764	110%	88%
新潟	コシヒカリ(一般)	16,611	44,431	15,720	44,267	16,773	40,158	891	▲162	106%	99%
北海道	ゆめぴりか	15,857	26,551	16,280	22,556	17,283	29,567	▲423	▲1,426	97%	92%
山形	つや姫	18,613	16,526	18,547	15,233	18,605	17,034	66	8	100%	100%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	21,090	9,930	20,263	14,631	20,432	11,223	827	658	104%	103%
全銘柄平均価格、合計数量		13,880	693,619	13,033	623,875	15,001	605,101	847	▲1,121	106%	93%

## 2. 米穀販売事業者における販売数量の動向（令和4年12月）

- 米穀販売事業者における販売数量(令和4年12月)は、前年同月比101.3%(コロナ禍前の令和元年比でも100.1%)となっている。
- 小売事業者向けは、巣ごもり需要により令和2年に増加したことから前年同月比末を下回る傾向にある。令和4年9月以降は、令和元年をも下回る状況にあったが、12月は令和3年、令和元年12月を上回っており、今後持続していくのか一時的なものか注視する必要がある。
- コロナ禍により大きく需要が落ち込んだ中食・外食事業者等向けは、前年同月比を上回って推移しているが、まだ令和元年の水準までは回復していない(12月で令和元年比96.3%)。

<米穀販売事業者における販売数量の動向> (前年同月比)

	3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	106.5%	95.7%	84.2%	91.9%	108.1%	98.8%	98.6%	101.0%	99.4%	95.9%	98.1%	94.5%
(※令和元年との比較)	(107.6%)	(106.8%)	(104.2%)	(100.7%)	(103.0%)	(102.3%)	(101.8%)	(105.6%)	(101.0%)	(98.8%)	(98.9%)	(102.0%)
中食・外食事業者等向け	87.0%	87.5%	102.6%	121.2%	115.3%	103.8%	105.5%	100.1%	101.8%	99.5%	102.7%	103.4%
(※令和元年との比較)	(85.6%)	(86.9%)	(90.8%)	(90.8%)	(87.2%)	(92.4%)	(90.7%)	(85.0%)	(90.3%)	(91.5%)	(94.3%)	(95.2%)
販売計	97.0%	92.2%	91.1%	102.4%	110.9%	100.8%	101.5%	100.6%	100.4%	97.5%	100.2%	98.4%
(※令和元年との比較)	(96.7%)	(97.6%)	(98.0%)	(96.2%)	(95.9%)	(97.9%)	(96.6%)	(95.7%)	(96.2%)	(95.4%)	(96.7%)	(98.8%)

	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	97.2%	95.2%	99.2%	99.3%	97.3%	99.6%	96.3%	98.0%	97.0%	98.1%	99.8%	102.0%
(※令和元年との比較)	(104.5%)	(101.6%)	(103.3%)	(100.0%)	(100.7%)	(101.9%)	(98.0%)	(103.5%)	(98.0%)	(96.8%)	(98.6%)	(103.6%)
中食・外食事業者等向け	105.1%	101.3%	101.0%	103.0%	106.4%	104.1%	100.9%	109.2%	108.6%	104.4%	100.2%	100.4%
(※令和元年との比較)	(89.9%)	(88.1%)	(91.7%)	(93.5%)	(93.0%)	(96.2%)	(91.6%)	(92.8%)	(98.1%)	(95.3%)	(94.4%)	(96.3%)
販売計	100.6%	97.7%	100.0%	100.9%	101.1%	101.5%	98.3%	102.8%	101.9%	100.9%	100.0%	101.3%
(※令和元年との比較)	(97.3%)	(95.4%)	(98.0%)	(97.1%)	(97.2%)	(99.4%)	(95.0%)	(98.4%)	(98.1%)	(96.1%)	(96.6%)	(100.1%)

農林水産省「米穀の取引に関する報告」より

※ 調査対象は、年間玄米仕入れ数量5万トﾝ以上の販売事業者(年間取扱数量約150万トﾝ(令和4年産生産量670万トﾝの約2割))

### 3. 令和4年産米の集荷・契約の動向（令和4年12月末）

- 令和4年産米の12月末の全国集荷状況は249.9万ト（前年同月比92.7%）、契約数量は191.4万ト（同104.8%）、販売数量は55.5万ト（同96.7%）となっており。契約進捗は76.6%、販売進捗は22.2%と前年を上回って推移。
- 福島県全体では、契約数量は前年を上回っているが、集荷数量販売数量とも前年を下回っており、契約進捗は78.3%、販売進捗は11.5%と販売進捗は全国平均を下回って推移。
- 本県の銘柄別には、契約進捗は全銘柄で前年産を上回って推移、販売進捗は全銘柄で前年産を下回って推移している。

<令和4年産集荷・販売状況>

単位:千ト、%

区分	銘柄等	年産	集荷数量	契約数量	販売数量	契約進捗	販売進捗	契約残数量	販売残数量
福島	中通コシヒカリ	4年産	35.5	27.4	4.0	77.2	11.3	8.1	31.5
		3年産	38.1	18.1	6.5	47.5	17.1	20.0	31.6
		比率・差	93.2	151.4	61.5	29.7	▲ 5.8	▲ 11.9	▲ 0.1
	会津コシヒカリ	4年産	29.0	27.6	2.0	95.2	6.9	1.4	27.0
		3年産	30.3	27.3	2.4	90.1	7.9	3.0	27.9
		比率・差	95.7	101.1	83.3	5.1	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 0.9
	浜通りコシヒカリ	4年産	4.5	3.9	0.3	86.7	6.7	0.6	4.2
		3年産	5.0	3.9	0.4	78.0	8.0	1.1	4.6
		比率・差	90.0	100.0	75.0	8.7	▲ 1.3	▲ 0.5	▲ 0.4
	ひとめぼれ	4年産	20.8	14.1	3.1	67.8	14.9	6.7	17.7
		3年産	23.5	11.6	3.7	49.4	15.7	11.9	19.8
		比率・差	88.5	121.6	83.8	18.4	▲ 0.8	▲ 5.2	▲ 2.1
	天のつぶ	4年産	10.9	9.3	1.2	85.3	11.0	1.6	9.7
		3年産	16.7	8.3	2.7	49.7	16.2	8.4	14.0
		比率・差	65.3	112.0	44.4	35.6	▲ 5.2	▲ 6.8	▲ 4.3
全体	4年産	111.7	87.5	12.8	78.3	11.5	24.2	98.9	
	3年産	124.0	73.4	17.4	59.2	14.0	50.6	106.6	
	比率・差	90.1	119.2	73.6	19.1	▲ 2.6	▲ 26.4	▲ 7.7	
全国	4年産	2,499.0	1,914.0	555.0	76.6	22.2	585.0	1,944.0	
	3年産	2,696.0	1,826.0	574.0	67.7	21.3	870.0	2,122.0	
	比率・差	92.7	104.8	96.7	8.9	0.9	▲ 285.0	▲ 178.0	
参考 新潟	コシヒカリ一般	4年産	135.0	114.7	25.3	85.0	18.7	20.3	109.7
		3年産	124.6	95.6	25.7	76.7	20.6	29.0	98.9
		比率・差	108.3	120.0	98.4	8.2	▲ 1.9	▲ 8.7	10.8

#### 4. 民間在庫の動向（令和4年12月末）

- 令和4年12月末の民間在庫は、全国で328万ト（前年同月比▲21万ト）と減少。1年古米の在庫も8万ト減少しているが、令和2年12月末よりは多い状況。
- 福島県の12月末民間在庫も169千ト（前年同月比▲23千ト）と減少。

<民間在庫の推移>

単位:千ト

区分		4年12月末	3年12月末	2年12月末	4年-3年	3年-2年
福島	当年産	146	151	185	▲5	▲35
	1年古米	20	37	37	▲17	0
	全体	169	191	223	▲23	▲32
全国	当年産	2,730	2,930	3,040	▲200	▲110
	1年古米	390	470	310	▲80	160
	全体	3,280	3,490	3,420	▲210	70
(参考) 新潟	当年産	250	245	282	5	▲38
	1年古米	16	20	19	▲5	2
	全体	266	267	301	▲1	▲35

#### 5. 事前契約数量（令和4年12月末現在）

- 全国では1,339千トと前年産比+94千ト、福島県は54.3千トと前年産比+2.2千トとなっている。
- 事前契約数量/集荷数量は、全国の57.3%に対し福島県は48.6%。

<事前契約数量>

単位:千ト

区分		集荷数量 A	事前契約数量 B	B/A
令和4年産	福島県	111.7	54.3	48.6%
	全国	2,499.0	1,433.0	57.3%
令和3年産	福島県	124.0	52.1	42.0%
	全国	2,696.0	1,339.0	49.7%
4年産-3年産	福島県	▲12.3	2.2	6.6
	全国	▲197.0	94.0	7.7

※ 令和3年産は、令和3年12月末時

## 6. 令和5年産米制度別・用途別作付計画

- 福島県の令和5年産の制度別・用途別作付計画は、主食用米については令和4年産と同じ51,900haとし、非主食用米については、飼料用米を中心としつつ加工用米・輸出用米の拡大を目指すこととした。
- 水稻以外への転換については、麦・大豆・そばを中心に高収益作物への転換を含め570ha程度の拡大を目標に取り組むこととした。

<制度別・用途別作付計画>

単位：ha

年産		4年産		5年産	
		計画	実績	計画	4年実績差
項目		①	②	③	④=③-②
主食用作付面積		52,600	51,900	51,900	0
計画面積との差		-	▲ 700	-	-
非主食用米	SUM(①:⑥)	18,800	19,629	19,600	▲ 29
	①飼料用米	11,250	12,631	12,600	▲ 31
	②備蓄米	5,300	5,408	5,300	▲ 108
	③加工用米	1,000	382	450	68
	④WCS	1,100	1,078	1,100	22
	⑤輸出米	100	82	100	18
	⑥米粉用米他	50	48	50	2
全水稻作付面積		71,400	71,500	71,500	0

<その他戦略作物等作付計画>

単位：ha

年産		4年産		5年産	
項目		計画	実績	計画	4年実績差
		①	②	③	④=③-②
麦		313	291	330	39
大豆		811	786	940	154
そば		1,974	1,828	2,100	272
なたね		56	55	55	0
飼料作物		1,822	1,642	1,700	58
地力増進作物		0	4	5	1
高収益作物		1,148	950	1,000	50
計		6,124	5,556	6,130	574
畑地化			107	110	3

○ 主産道県の動向

米主産道県における令和5年産の主食用米の「生産の目安」も本県同様令和4年産作付実績と同水準(一部の県は、4年産目安と同水準)で設定されている。

	23年産 面積目安 (ha)	22年産 実績比	22年産 目安比
北海道	82482	±0%	-1.8%
岩手県	43700	±0%	-1.8%
宮城県	56935	-0.1%	±0%
秋田県	69100	±0%	+2.5%
山形県	52860	+0.3%	-0.4%
福島県	51900	±0%	-1.3%
茨城県	59668	+2.3%	-0.5%
栃木県	44652	-3.1%	±0%
千葉県	46177	+1.5%	±0%
新潟県	99900	±0%	+1.4%

(令和4年12月29日 日本農業新聞より)

## 7. 備蓄米をめぐる情勢

○ 令和5年産備蓄米の政府買入予定数量を208千ト、福島県の優先枠は令和4年産同様の27,050トとして1月24日第1回入札を実施。

- ・ 全体で93,129ト(都道府県優先枠84,117ト、一般枠9,012ト)落札。福島県の優先枠は2,320ト落札。
- ・ 第2回入札は、2月14日の見込み。

○ 農水省は令和6年産以降の買入予定数量及び都道府県別優先枠等については、以下の考え方を基本に今年の夏頃を目途に決定するとしている。

- ・ 政府買入予定数量  
政府買入予定数量のうち、豪州国別枠分については、会計検査院の指摘を踏まえ、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模の買入となるよう対応していく考えのもと、制度の詳細について検討。
- ・ 優先枠の上限及び都道府県別優先枠の配分  
令和5年産の作付け動向や今後の需給動向等を注視しつつ。財政負担軽減の観点も含め、優先枠と一般枠のバランスを確保することを前提に検討。

## 8. 飼料用米の支援にかかる動向

農水省は、令和5年産以降の飼料用米（一般品種）への支援について、以下の方針を示した。

- ・ 令和5年産は多収品種の種子を確保することが困難であることを踏まえ、当該年産に対する支援内容は、多収品種・一般品種ともにこれまでと同様とする。
- ・ 令和6年産～8年産にかけては一般品種による作付に対する支援水準を段階的に引き下げる。
- ・ 種子の増産については、「令和6年産については、早期に種子への転用を行うことで、基本的に多収品種での生産が可能。」としている。

	令和5年産	令和6年産	令和7年産	令和8年産
一般品種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量に応じて、5.5～10.5万円/10a (標準単価 8.0万円/10a) (従来と同様)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量に応じて、5.5～9.5万円/10a (標準単価 7.5万円/10a)</li> </ul> <p>or</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単価7.5万円/10a</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量に応じて、5.5～8.5万円/10a (標準単価 7.0万円/10a)</li> </ul> <p>or</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単価7.0万円/10a</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量に応じて、5.5～7.5万円/10a (標準単価 6.5万円/10a)</li> </ul> <p>or</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単価6.5万円/10a</li> </ul>

※ 耕畜連携の促進等の観点から、令和5年産より、出荷確認時の報告事項に、稲わらの利用状況や品代等を追加し、検証を行う。

※ ※多収品種については数量に応じて5.5～10.5万円/10a (従来どおりの単価)

## 9. 水田活用直接支払交付金の交付対象水田について

農水省は、交付対象水田の「5年水張りルール具体化」について次のような方針を示した。

- 5年間に一度も水張りが行われていない農地は交付対象としない  
 <目的>
  - 転換作物が固定化している水田は畑地化を促す
  - 水田機能を有する農地において転換作物の生産を行う場合は、ブロックローテーション体系の再構築を促す
- ただし、以下に該当するものは、5年間に一度も水張りが行われなくても交付対象水田から除外しない
  - 災害復旧に関連する事業が実施されている場合
  - 基盤整備に関連する事業が実施されている場合
- 水張りは、水稻作付により確認することを基本とするが、以下のすべてに該当する場合は水張りを行ったとみなす
  - 湛水管理を1か月以上行う
  - 連作障害による収量低下が発生していない

以上